

ラフ族ロジョー村教会建設プロジェクト

ロジョー村(老左村)：80戸 村長：リー・ミンシェン
人口内訳：ラフ族(拉祜).....72戸(342人) アカ族(阿卡).....8戸

ロジョー村教会集会場兼村民会議場 (陸軍 17 軍区の援助で建設済)増設プロジェクト

ラフ族ロジョー村教会(ロジョー・カ・ベ・ボイエ)
聖日礼拝参加者：毎週 200 名

山岳民族ラフ族は山を愛し、狩猟と焼畑農業を生活の糧としてきた平和な民族である。第 2 時大戦後も内乱で苦しみ痛み続けられた末、中国、ミャンマーを経て命からがら脱出を試みた。クリスチャンリーダーに率いられて安住の地を求めさ迷った末、1980 年に、北タイの山地に集団移動して来た。そのリーダーの名前を以ってロジョー村と呼ばれている。

分散する部落のほぼ中心に位置する丘の上に建てられた一軒屋、ロジョー村の教会堂を一人で散策することにした。赤土のゆるい斜面を削っただけの、滑り易い階段。注意深く足場を確保しながら登って行く。会堂の前に立つと、こわれた窓、穴の開いた板壁、古木に囲まれ日の射さない静かなたたずまいが、どことなく村はずれに置き去りにされている老朽化した日本の神社を連想させる。でも、日曜日の朝にな

るとこの村のクリスチャンたちが野山を越えて共にまみえ、賑わいを見せる場所である。長年、主の御前に霊的な祈りと礼拝を奉げ、主に在る兄弟姉妹の交わりがなされてきた神聖な場所である。

予てから、会堂の損傷が激しく、手狭で、建て直しが急務なので、何とかならないか....、と聞かされていた。200 人以上の人が集うには手狭な礼拝堂、「新しい教会が欲しい」と祈り願ってきたが、貧しい村人たちにとって、食べるのが精一杯、自力で建て換える財力もないのだ。

破れた窓から薄暗い礼拝堂の中に入って見た。手狭で本当に 200 人もの人を収容できるのだろうか?と思われた。外側は、屋根の突き出しもないので、外にあぶれた信者が雨ざらしになる礼拝風景を思うと実に悲惨である。頼まれても今の自分の力では無力で何もできない。ただ新会堂実現のためにどうか主が働いてくださいとお祈りするだけで会堂を出た。



集会場兼村民会議場増設プロジェクトについて

教会を出て階段を降りる斜面に貯水槽があった。そして、すぐ脇にバラック小屋が建っていたことが気になった。厚いコンクリート床が敷かれ角材の柱と囲い、スレート屋根を乗せただけの代物。正面だけがブロック積みされた壁になっていて、三方は素通しのまま。作りかけなのか完成品なのか分からない実に不思議な建物である。狭いけど教会堂よりはまだしっかりした作りの建物である。仮設テントの組み立て用鉄材が乱雑に放置されていた。教会堂が欲しい、何とかならないかと請われている一方、何でこんな役に立尾たない建物が大切な教会の敷地内に建っているのだろうか疑問に思い、泊めさせていただいている村長さんの家に帰ってから、疑問をぶつけてみた。

陸軍第 17 軍区の無償援助で建設された集会場兼村民会議場だとのこと。ところが役人仕事のずさんさはどこの国でも同じこと。只で建てては呉れたものの、寸足らず、5~60 人は入れても全部落 80 戸の戸主が入ることは出来ない。したがって会議を招集するときもこの場所を利用できない。しかたがないので、今は村長さん宅の前の広場に集まって、暑い日

差しを身に受けながら会議をしているそうだ。途中で雨が降りだすと中止せざるを得ないそうだ。

私:「あの場所は教会の敷地なら村民の会議以外に当然教会行事のために自由に使えるわけですね？」 村長:「ハイ」

私:「じゃあ、もし 80 人収容できる集会場に改造した場合、教会の活動のためどんなことが出来ますか？」 村長:「礼拝前に聖歌隊が練習するため...」「結婚式にも使えます」

私:「エッ？」 村長:「ラフ族のクリスチャンは、過去に結婚したことのある人は礼拝堂を使わせてもらえません。礼拝堂の外で式をすることになるので...」 私:「ホー」

私:「祈禱会や聖書の学びのためには？」 村長:「もちろん」

私:「あのぉ、日本人が山に来たとき、日本語を教えてあげたりすることもある？」 村長:「もちろん、大いに結構です。」

私:「今、教会堂を建てることは難しいですが、拡張工事のためであれば、何とか経済的にご協力できるかもしれません」「下山する前に、材料費の見積りを出して頂けますか？」

ラフ山地教会造りの第一歩と捉えて、スタートしました。本会堂建設のために兄弟姉妹のお祈りを頂ければ幸いです。

見積り(収支)概要				
屋根スレート材	36 枚	@100	ハーツ	3600
角材	2" 4" 3m	10 本	@90	900
	2" 3" 5m	8 本	@130	1040
	2" 6" 5m	4 本	@250	1000
	6" 6" 3m	2 本	@250	500
セメント	20 袋	@145		2900
柱基盤石	2 本	@100		200
砂利	1 車両分			600
砂	1 車両分			400
工賃(排水溝作り)	2 人	2 日分	@100	400
	2007 年 3 月			計 11340
ペンキ				2123
電気工事代				2500
	2007 年 4 月 3 日			計 4623
雑費				5000
	2007 年 4 月 28 日			計 5000
				総計 20963

集会場兼村民会議場増設プロジェクト経過報告

* 村長からの伝言連絡によると、当増設プロジェクトは建築材料も揃い、6月3日(日)の礼拝の祈りをもって工事を開始する運びとなりました。約1週間の工期で仕上がるそうです。

タイの山岳地帯では木材の伐採を認められていないため、倒木を捜し揃えるのに時間がかかり、やっと製材所で加工し終わることが出来たのだそうです。

材料費も備えられました。ハレルヤ! 全てを主に感謝します。(2007年6月1日現在)

* 6月は雨季に入っており、部落までの山道が不通になることもしばしばです。集会場は無事立て上げられたようなので、村長さんに写真を送って頂くつもりです。(7月2日)



ロジョー村の子供たち

ロジョー村教会集会場の増設完成写真及び村長からの手紙



村長からの手紙（7月にチェンマイ滞在中、ラフ族のリーダー、ダイエンさんに託され届けられました）

あなたの援助をととても感謝しています。臨時の会堂が建て上がり、当面、会議をする場所の問題も解決でき、成人を対象とした読み書き補修クラスを実施するための困難も解決しました。日曜日には聖歌隊の兄弟姉妹が讃美練習出来る場所を与えられました。村民全体は、私たちの為に熱き愛のこもった助け手、愛の心を持った兄弟をお送りくださり、私たちの為に沢山の問題を解決してくださった神様に感謝します。

ここに、私たち全村民は、あなたに心から感謝もうしあげます。どうか、次の機会には私たちの村に来ることが出来、一緒に神の恵みを分かち合えますように。主があなたと共におられますように。平安がありますように。

2007年6月20日

ロジョー村村長 リー・ミンシェン